



2014  
Vol.18





## 野沢正光建築工房

代表 野沢 正光

木材の利用や環境に配慮した建築を手掛け、全国的に注目を集め木造ドミノ住宅の考案者でもある建築家野沢 正光氏(野沢正光建築工房 代表)。木造ドミノ住宅ではエコビルト大賞やグッドデザイン賞などを受賞し、戸建住宅のみならず環境配慮型の大型木造建築も手掛けている。近年では既設学校の改修工事において“減築”という新たな取組みを行っているエコロジー建築の第一人者でもあります。今回は、大型木造建築の近況やエコロジー建築の取組みについてお話し頂きました。

## 大工の技術を活用した 日本独自の木造建築へ

公共の大型木造建築で言えば、木材利用促進の支援があり木造にしようという動きがかなりあるけど、旧来の法律や建築規制もちゃんとクリアしないといけない課題がある。今、東京大学の稻山教授が大型木造建築のJIS改訂に向け活動されているので、この仕組みが出来上がると学校の木造建築も面倒なくできると思っています。

日本の木材である杉・ヒノキを材料に、非常に精度の高い大工の建築技術が発展してきたわけで、その日本の木材と大工の優れた技術があれば、他の国に負けない日本独自の木造建築の展開が見込めると思う。まずは幼稚園とか老人ホームのような、2階立ての中規模のものから木造建築になっていき、そして何千平米、何万平米などの超大型の木造建築は次のステージで、別のものとして組み立てられていくんじゃないかな。まずは伝統ある大工の技術と日本の木材を活用する。私自身も、大工の技術を活用した日本独自の木造建築が出来るんじゃないかと今も挑戦し続けているんです。

それと、今の日本の森には建材に使える木が豊富にあって、縄文時代の森だという話もあるでしょ。その森の木を建材だけでなく資源=バイオマスという形で燃料として活用する。北海道の下川町などは「バイオマス産業都市」として、建材だけでなくバイオマス発電を利用しているし、全国的にも木材を100%利用できる仕組みが必要だよね。



三加和小学校の適正化

既設 中学校の隣に小学校を建てる中小併設校。中学校の既存プランを見てみると中学校自身も教室が余っていたので、小学校の5年・6年の学年を中学校の校舎へ、小学校の校舎には1年~4年の4学年を入れる。木造平屋建てという適正なボリュームで小学校を建てる。

## 建築の適正化へ “減築”というエコロジー

日本では6,000棟~7,000棟位の学校が廃校となって、これからは人口も減ってくる。基本的にはストック過剰な状態だよね。住宅でも空き家対策が大きな問題になっているでしょ。

「このストックをどうするか?」というのが今の時代の宿題であって、「スクラップ&ビルト」は今の時代の宿題ではない。“適正化”というのは今まで1,000平米必要だったものを800平米程のちょうどいい大きさにして、現代的なクオリティーにして使っていくことだと思う。

50年前の建物は、「全体がダメだから建て直そう。」となるけど、そうするとプレハブの建設費・リース料・除却費用とか多額のコストがかかるよね。これらはどこにもストックと



改修される前の愛農学園農業高等学校:50年前に建てられた一般的な鉄筋コンクリート造の校舎。耐震にも問題があり一時は建て替えも検討された。

して残らない訳だから、そう考えると“減築”という方法は、仮設校舎を伴う新築に比べてかなり少ないコストでクオリティーの高い建物ができる。50年前に建てられた学校だと日射や気密の問題があって夏暑くて冬は寒い。今はある程度回避出来る訳だから、残すところは残して、新しく建てるのに必要なお金の何割かで現代の性能に直していくよ。例えば、窓はダメだけどコンクリートの躯体は大丈夫とか、耐震的には問題だけど、最上階の3階部分を削って2階建てにすると重さが軽減され今の柱の断面でOKになるとかね。

今の社会の状況を考えると、適正化という知恵を活かさないと益々余計なストックの為にコストが必要になる。「日本の建築がどうあるべきか。」を考えないといけない問題だよね。



愛農学園の減築

3階建ての建物から3階部分を削り2階建てにして柱にかかる負荷を減らしている。外側を断熱、窓にペアガラス、庇を設けて日射を遮る、新しい屋根にはOMソーラーを設置、床の中に暖気を入れることで、冬の室温も15度を達成している。



## 日本の住宅の適正化 開かれた住宅のあり方とは

適正化といえば戸建住宅の方が大きな問題だよね。省エネ法の要求するような水準の建物にしようとか、ストックとして今ある既存の建物をリノベーションして住み続ける社会になっていく。そういう意味では欧州の住宅のあり方が参考になると思う。小さな敷地に家を建てて駐車場を作ると木が一本も生えないみたいな住宅は70年、80年後は不良資産になるかもしれない。1つの小さな敷地じゃなく2つ、4つの敷地を一個にする。住宅をシェアして長屋のように造れば庭が広くなるし、外壁面積を減らすことで断熱効果も見込める。閉じた住宅じゃなくて住宅を開いて繋いでいくという事をしていく方が、コストもかかるないし環境にも優しくなるよね。日本の住宅のあり方もそういった可能性があるはずだと思う。社会の中でどうやったら開かれ、再生資源として残していくか。だったら住宅はこうしようとかって考える力が大切だよね。



## 欧州の建築について考えると 未来の日本建築のあり方が見えてくる

欧州の視察ツアーで、農産物の余剰品から建材を作っている施設を見せて貰ったことがあるんだけど、そういうのを見るのは面白かった。今まで縁が無かった隣同士の産業が仲良く繋がり、農業と建築が繋がり新しい産業を生み出している。企業だけでなく、地域交流の繋がりとか、コミュニティの活動で「どうやってゼロエネルギーにするか」とか「風通しのいい開かれたコミュニティづくり」に一生懸命取り組んでいる所を見ることも大事なことだよね。戸建の住宅は地域産業であって、建てる・メンテナンス・リフォームは、地域にある工務店の仕事だけど、昨日と同じ仕組みのままいいかというと、そうでは無くなるかも知れない。コミュニティを築くためにドイツではどうやっているかを参考にしてみる。

もうひとつは、文化の違いを感じて、日本では普通だと思っていることがドイツでは普通でなかったり、この手があるんだったら3番目の手もあるんじゃないかと考えるようになる。『社会や建築のあり方としてのもう一つの形』そのヒントを探すみたいなことが非常に面白いよね。

他の国の規格をそのまま日本で使う難しさはあるけど、その国の考え方や取り組みはエコバウ建築ツアーで経験出来るんじゃないかな。



## 第18回 ドイツ・スイス エコバウ建築ツアー2014

### ～持続可能な環境共生の素材と北ドイツ・スイスの最新エコロジー建築の旅～

未来に残すべき日本建築のカタチ。持続可能な環境共生の暮らしのあり方とは。

旅を共にする仲間達と一緒に考えを深めてみませんか？

建築から始まるエコロジーを体感する旅へ。



ドイツ:IBAプロジェクト建築の視察、リボス社の視察

スイス:スイス漆喰 施工建築の視察、エコ住宅・ミネルギー住宅の視察、建物省エネ化政策のレクチャーなど

ツアー期間:2014年9月14日(日)～9月22日(月) 9日間の旅

発着地:成田国際空港・関西国際空港

ツアーコーディネーター:ホルガー・ケーニッヒ氏(ドイツ)、滝川 薫氏(スイス)





## 株式会社三成ホーム 代表取締役 細谷 覚

栃木県真岡市を中心に、自然素材にこだわり安全で快適な家づくりを手掛ける三成ホーム様。代表の細谷さんは、欧洲が取り組むエコロジカルな家づくりを目指し、弊社が開催するエコバウ建築ツアーハウスに幾度となく参加してくださっています。今回は、エコバウ建築ツアーハウスのご感想を伺いました。

### Q. 今まで参加されたエコバウツアーハウスで、一番印象に残っている所は？

自分たちが実際に使っている素材の工場を見学できたのが一番印象に残っています。ドイツ リボス社ではボーテ社長自身から理念を聞いたり、亜麻仁油で料理をご馳走になりました。私たち工務店もいちユーザーとして、どこで誰がどういう想いで作っているのか、ドイツメーカーのこだわりや考え方を直接聞けた事が大きかったです。



### Q. スタッフの皆さんも一緒に、社員教育の一貫として取り組まれていますね？

スタッフを連れて行く時は初めにレクチャーをするんですよ。基礎知識も必要だし、理想とのギャップもあるしね(笑)。例えば欧洲では集成材でも木ですし「木」という捉え方が違うってところ。集成材は接着剤の問題もあるけど、欧洲では限られた資源を有効活用するとか、持続可能という意識の方が非常に高いですね。そういうところは分かって見て欲しいんです。それから日本には無い色の使い方とか。ちょっとしたアクセントに扉の色を赤にするといった配色のデザインセンスは是非学んでもらいたいですね。

あとはやっぱり欧洲の空気を感じて欲しいですね。質実剛健とか、原発を国民自ら決断して止めたという誇りが伝わってくるし、自然環境とかエコロジーに対する意識レベルが日本とは全然違うんですよ。

ホテルに泊まってもちろんオガファーザーが貼ってあって、ペアガラスに樹脂サッシがちゃんと使ってある。自分たちが実際取り扱っているものを一般的な場所で目にすると腑に落ちる部分があると思うんですよね。スタッフも実際にお客様に写真を見て紹介していますよ。



### Q. ツアーハウスに参加され、欧洲の建材の選び方や考え方の違いを感じますか？

日本だと安くてある程度性能が良いという部分で判断されるけど、ドイツでは作るまでの過程や輸送、廃棄、安全性の全てが評価されてはじめて良い、悪いが判断される。商品に対する価格はその次なんですね。日本の建具メーカーは一瞬本物かと思うくらい綺麗な木の化粧シートを作る。手入れが楽、メンテナンス不要、本物の見栄えに近くて豪華に見えれば良いという考えがあるんですね。だけど、欧洲では本物を使い、本物を使って美しく見せる、長く使って馴染んでいくとアンティークとしての味わいができる。そういうものをツアーハウスで見ていると我々も本物を使いたいと思うんです。きちんと手入れをしながら木の風合いや、経年変化を楽しみ長く暮らしてもらいたいんです。

それに、本物の木を使えば、他のエネルギーコストを使わなくて済む訳ですよ。化粧シートを作るのに別の材料やエネルギーを使って作るでしょ。そういうのはちょっと違うなと思うんですね。私たちが選ぶ商品の価値基準もあるし、そういう価値の違いをきちんとお客様に伝えていきたいですね。

### Q. エコバウ建築ツアーハウスに参加され家づくりに影響はありましたか？

一番最初に参加したツアーハウスで、世界の建築は違うんだと衝撃を受けましたね。それから行く回数を重ねると見るポイントも変わってきました。ちょっとしたアクセントの色の使い方、素材の使い方や考え方も理解してきて参考になっています。我々の家作りを考えたときに、もちろん省エネの数値目標はきちんとクリアしながら、出来るだけ自然素材を使いつぶさないで、羊毛を使ったり木繊維のボードを使ったりとか、ある程度、欧洲の基準を満たして、地球環境とか省エネとかトータルで考えた家づくりをやっていきたいですね。



## ドイツ Germany

### 環境共生の素材と

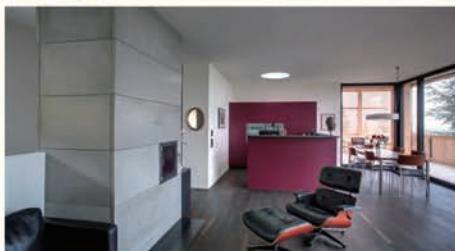
#### IBAの最新エコロジー建築を体感する

ドイツ中部に位置するフランクフルトから旅をスタートします。ドイツでは主にパッシブ基準をクリアする建築の視察やコミュニティ活動とふれあいながら、今年創立40年を迎えるリボス社へ。創業当時から変わらない併まいをみせるリボス社本社では、工場の視察やリボスのフィロソフィと商品に関するワークショップを予定しています。その後、ハンブルクまで北上しInternational Building Exhibition(IBA)のプロジェクト建築の視察を行います。

#### Eco-bau Tour 2014

日程	スケジュール
9月15日(月)	・省エネ住宅 ・ZUBセンター(エコロジービル)
9月16日(火)	・Livos社視察 ・BSU ハンブルク ・IBA プロジェクト建築
9月17日(水)	・IBA ウッドキューブ ・森の家 ・IBA プロジェクト建築
9月18日(木)	ハンブルク～チューリッヒへ移動





## スイス ミネルギーPやエコ建築 プラスエネルギー建築を体感する

建物分野は、スイスの脱原発・脱化石エネルギーを目指すスイスのエネルギー政策の最重要の分野でもあります。スイスの建物の省エネ化政策は三つの柱から成り立ち、80年代からの規制基準の段階的強化。90年代からの任意認証であるミネルギー基準。そして、省エネ改修の促進です。こういった政策によって建設市場の省エネ技術レベルが高められてきました。今回のエコバウ建築視察では、戸建てを中心としながら、様々な技術を活用したミネルギー・Pやミネルギー・P・エコ建築、それに太陽光発電を組み合わせたプラスエネルギー建築の事例を見て行きます。



### 環境ジャーナリスト

**滝川 薫** (スイス ベルン州 在住)

環境ジャーナリスト、MIT Energy Vision社 共同代表。

1975年、日本・千葉県生まれ。東京外国语大学イタリア語学科卒業。1999年よりドイツ語圏スイスを拠点に環境・エネルギー・建築をテーマに取材、スイスや日本の専門誌へドイツ語および日本語で寄稿。多数の調査、視察セミナー、通訳・翻訳、講演活動を手掛ける。2012年にMIT Energy Vision GbR社を村上敦及び池田憲明と共同設立。視察やセミナー等を通じて、再生可能エネルギーと省エネルギーをテーマとして、欧州中部から日本へのノウハウトランクスファーを行う。

主な著書『サスティナブル・スイス』(単著 2009、学芸出版社)、『100%再生可能へ!欧州のエネルギー自立地域』(編著 2012、学芸出版社)など

今回のエコバウ建築ツアーの後半9月19日・20日の2日間はスイスのエコロジー建築を視察します。

コーディネーターに環境ジャーナリスト 滝川 薫様をお招きし、スイス1日目はスイス漆喰の施工建築の視察へ。最終日となる2日目はミネルギーPなどのエコ建築の視察を予定していますのでご期待ください!

### 2014年9月20日(土)スイス視察先情報のスケジュール

日程	スケジュール
9:00-10:30	プラスエネルギー住宅の名手 建築家 ヴェルナー・セツツさんによるレクチャーと事例 ・レクチャー「省エネ建築のプラスエネルギー化と実測からの経験」 ・エネルギーP-Eco基準のプラスエネルギー三世帯住宅見学(地中熱ヒートポンプ+太陽光)
11:00-12:30	環境常設展示施設「環境アリーナ」にて昼食、自由見学 ・省エネ建築・環境熱源の展示が充実している「環境アリーナ」へ ・展示施設自体がミネルギー・P建築である。特徴として、木造屋根や地中熱+太陽光+太陽熱冷房を利用したゼロエネ建築を実現しています。
12:30-14:00	・ミネルギーの宝庫、東スイス・ヒュットヴィーレン村へ移動 バスの中で滝川様レクチャー「スイスの建物省エネ化政策」
14:00-17:00	ミネルギーの戸建て建築を見学 ・パッシブハウス推進協会の建築家による案内 ・エネルギーP-Eco木造建築、コンパクト換気設備、木質バイオマス、プラスエネルギー、高性能ヒーポン等を予定しています。

注:訪問先は、都合により変わることがあります。

スイスの人の考える省エネやプラスエネルギー建築を実際に体感し、設計者の方々と直接意見交換することによって、参加者の皆さんのお仕事への具体的な刺激として頂きたいと思っています。(滝川)

Fotos: Setz Architektur / Honegger Architekten / Bauatelier Metzler

## スイス Switzerland

### これからの日本建築のあり方とは?スイスの省エネ化政策を学ぶ

スイス チューリッヒでは、環境ジャーナリスト 滝川 薫様をコーディネーターに迎え、スイス漆喰の施工建築の視察に加えミネルギーP基準の集合住宅や戸建住宅の視察を予定しています。また、東スイスへの移動時間を利用して、滝川様から「スイスの建物省エネ化政策」についてレクチャー頂きます。

2020年の新築住宅 省エネ義務化の動きはこれから益々本格化してきます。その先駆けでもあるドイツ・スイスの省エネ建築を肌で感じ、未来に残すべき日本建築のあり方を旅と共にする仲間達と一緒に考えを深めてみませんか?

### Eco-bau Tour 2014

日程	スケジュール
9月18日(木)	ハンブルク～チューリッヒへ ホテルにチェックイン 自由行動・Shopping
9月19日(金)	・スイス漆喰施工建築の視察 ・パッシブハウス
9月20日(土)	・ミネルギーP基準の三世帯住宅 ・「環境アリーナ」環境常設展示施設 ・「スイスの建物省エネ化政策」レクチャー ・ミネルギーPやエコの戸建て住宅の見学
9月21日(日)	チューリッヒ～成田・関空へ 22日(月)成田・関空着





## 掲載雑誌紹介

### Come home! vol.35

(主婦と生活社)

ライフスタイル誌  
2月20日 発売

見た目はシンプルでカッコよく  
住み心地はカフェのようになたかい。

建坪わずか12坪。でもコンパクトなLDKはかえて居心地いいし、いつも家族が近くにいられて幸せ。カフェをイメージしたフルオープン型のキッチンには無垢の床と漆喰壁、それと「TRUCK」の家具の相性が◎

#### 【設計・施工】

神崎 家匠部 神奈川県横浜市中区麦田町3-90  
TEL 0120-058-915 http://www.kanzaki-ltd.com/

#### Self remakeで Happy団地ライフ。

新連載スタート!  
古い団地をSelf remakeしながら  
愛最のわが家に育てよう!  
鈴木さん一家の奮闘記です。



### &home Vol.40

(エフジー武蔵)

インテリア誌  
1月15日 発売

間取り、自然素材。  
家族が健やかに暮らせる  
開放的な住まい

オープン型のキッチンから続く広々としたリビング。家族がいつも近くに感じられるように共有スペースがリビングに設けられています。

#### 【設計・施工】

#### スムスタイル(企広)

兵庫県姫路市青山西2-23-1  
TEL 079-267-3530  
http://sumu-style.jp/



### コンフォルト

(建築資料研究社)

インテリア誌  
5月1日 発売

#### 漆喰と木の家

長きに渡って、世界中で建物に使われてきた漆喰と木。最近、家づくりを真剣に考えた結果、「漆喰と木の家」に行き着く、という住まい手が増えています。意外に知らない漆喰の本当の姿。漆喰の全てが分かる1冊です!



### &home Vol.41

(エフジー武蔵)

インテリア誌  
4月15日 発売

人気の塗り壁材  
漆喰の魅力を徹底紹介

使ってわかった漆喰の心地良さと美しさ。  
ユーザーボイスとDIYでの施工方法が紹介されています。



一般参加者  
大歓迎  
資格・年齢不問



リボス  
創立40周年  
記念セミナー  
を開催しました。

5/20  
東京

5/21  
大阪

ヴァルデマー・ボーテ  
Waldemar Botheロバート・サイモン  
Robert Simon岩橋 亜希菜  
シュタイナー建築家

#### シュタイナーから生まれた

#### 環境共生の素材と

#### ドイツ 最新エコロジー建築

自然素材塗料のパイオニアとして1974年に設立し、今年創立40年を迎えるドイツ リボス社。創業者の一人で現オーナーであるローズマリー・ボーテ氏の後継者 ヴァルデマー・ボーテ氏とドイツ建築家ロバート・サイモン氏が来日し記念セミナーを開催しました。当初の予定をはるかに上回り、全国から200名にも及ぶお申し込みを頂きました。ご参加いただきました皆さまには心よりお礼を申し上げます。

#### これから暮らしStyle Self remake

#### 第21回口バスフェスタ in 万博公園 4月25日・26日・27日

ナチュラルな雑貨が並ぶ口バス系イベントでは西日本で最大規模となる口バスフェスタ。今年も万博公園内にて開催され、Self remakeのサポートーShopと共同出店させて頂きました。3日間の開催期間でなんと87,000人が来場! Self remakeのワークショップも好評のうちに終了しましたよ。



#### 第38回日本ホビーショー 4月24日・25日・26日

新建ハウジングと9人の女性ハンドメイド作家が運営する「小屋女子計画」4月24日~26日の3日間で開催した「日本ホビーショー」に小屋女子計画の皆さんが出展されました。「塗りたい、切りたい、参加したい」というDIY女子熱の高まりを感じる3日間。リボスの自然塗料を使ったワークショップも大盛況でした!



#### 雑誌コンフォルトが開催する「漆喰フェスタ」 5月24日

インテリア雑誌コンフォルトと編集アイシオールが開催する「漆喰フェスタ」。漆喰に興味のある設計士や自分たちでお部屋をリメイクしたいという方が集まってのワークショップ。スイス漆喰は色んな表情を見せたり、とっても塗りやすいと大好評でしたよ。



## 第5回 スイス漆喰の 塗り壁のある風景コンテスト2014

SAKANxArt

SAKANxFree

SAKANxComfort

#### コンテスト概要

塗り壁創作部門:スイス漆喰を使った創作パネルのコンテスト

Photo部門:スイス漆喰のある「暮らしのシーン」写真コンテスト

創作部門では、45cm四方の木枠の世界に表現していただきます。左官の伝統技法を使って表現したり、自由な発想や遊びごころで楽しくなる様な作品をお待ちしています。

応募締切: 2014年7月9日(水) 先着 200名様

優秀作品にはそれぞれ賞金をご用意しています。是非、ご参加ください。

#### 塗り壁創作部門

最優秀作品  
「朝露の森」  
有限公司八幡工業  
田原 亜沙子様



#### 暮らしのPhoto部門

最優秀作品  
「明日の会社ができるまで」  
明日の株式会社  
代表 村尾 周三江様

詳しくはチラシをご確認ください。

この情報誌に関するお問い合わせ  
資料・サンプル請求は

株式会社 **Iskeda** イケダコーポレーション

0120-544-453

仙台・東京・名古屋・大阪・福岡

〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島4丁目8-28 FJビル3F  
TEL.06-6452-9377 FAX.06-6452-9378

〒104-0045 東京都中央区築地7丁目10-2 築地小川ビル4F  
TEL.03-3544-4453 FAX.03-3544-4450

<http://www.iskcorp.com>  
E-mail info@iskcorp.com

